

ひたちなか市教育委員会会議録

令和7年 第2回 ひたちなか市教育委員会 2月定例会 会議録					
令和7年2月19日（水）		開会 午後4時00分		閉会 午後5時05分	
場 所	市役所第3分庁舎 防災会議室3				
出席委員	教育長 秋本 光徳	教育長職務代理者 佐藤 達	委員 鬼澤 宏幸	委員 大塚 佳代子	委員 原 嘉昭
欠席委員					
会議に出席した事務局職員	補 職 名				氏 名
	教育部長				箱崎 勝子
	総務課長				田口 清幸
	学校管理課長				橘 和典
	保健給食課長				金澤 幸浩
	参事兼指導課長				飯村 祐一
	青少年課長				植野 健一
	中央図書館長				大和田 千鶴子
	総務課課長補佐兼係長				菊池 徳
	総務課主任				清水 貴文
その他	その他（1）	ひたちなか市指定有形文化財考古資料の指定解除について【公開】			
	その他（2）	学校部活動の地域連携地域移行について【公開】			
	その他（3）	ひたちなか市教育委員会「市立学校運営方針2025」について【公開】			

令和 7 年第 2 回ひたちなか市
教育委員会 2 月定例会会議録

開会 16:00

教 育 長 皆様こんにちは。

お忙しいところお出でいただきましてありがとうございます。

先月末に総合教育会議においていただいた後、教育振興大会もあり、何とか次世代の表彰をすることができました。ありがとうございます。

また、十五郎穴のパンフレットがここにありますが、30周年の記念の冠をつけて、シンポジウムを行い、本当にショーホールが満員になるぐらいのお客様で、成功裏に終わることができました。

誠に協力ありがとうございました。

今日、審議事項はありませんが、その他で3件ございますのでよろしくお願いしたいと存じます。

その他（1） ひたちなか市指定有形文化財考古資料の指定解除について

総務課長 その他の1点目、ひたちなか市指定有形文化財（考古資料）の指定解除について、ご説明いたします。

資料1ページ目の表にございます、十五郎穴横穴墓群からの出土品2件につきましては、従来ひたちなか市指定文化財（考古資料）としておりましたが、令和6年12月25日付けで一括して県指定文化財とされ、令和7年2月6日に指定書が交付されました。

指定された物は、黒いパンフレット8ページからをお開きいただきたいと思います。8ページに載っています大刀、9ページの刀子、10ページの鉄鏃と鉄釘、これら267点でございます。

ひたちなか市文化財保護条例第5条第3項において、国又は県の指定があった時は市の指定は解除されたものとする規定されていることから、今回、市指定解除の報告をさせていただくものです。

資料2ページ目ですが、この指定の変更によりまして、本市の指定文化財の総数は69件となり、内訳は国指定3件、県指定15件、市指定51件となります。

報告は以上でございます。

【質疑、意見等】

特になし

その他（２） 学校部活動の地域連携地域移行について

指導課長 それでは、学校部活動に関しての調査検討特別委員会が開かれましたので、その記録についてご報告申し上げます。

資料（２）その他の、調査検討特別委員会記録をお開きください。

そちらに示したとおりですが、２月４日の火曜日に実施されました。

出席者につきましては、そちらに書いている議員の方々です。

また説明員としましては、教育委員会関係、市民生活部関係の方々に出席をいただきました。

質疑応答の要旨について説明いたします。

丸の１つ目ですが、人材の確保についてどのように進めていこうと考えているのかという質問が出されました。こちらの回答としましては、まずは色々な情報を集め、関係団体とのヒアリングを経て、詰めていきたいと回答しました。この間の総合教育会議でも、ご意見をいただきまして、学生や企業と連携して人材の確保が可能かどうか考えていく、このように回答をいたしました。

次に丸の２つ目ですが、どのような内容でアンケートを行ったのかという質問でした。当初の予定では、令和６年１０月にアンケート調査を実施することになっていましたが、その時期に実施できませんでしたので、本年３月に意向調査を行うことを報告申し上げます。

それから、１ページの１番下の丸ですが、たくさんの所管が関わる中、一元管理できる新たな組織や、コーディネーターの配置を考えているのか質問が出ましたので、現段階では新たな組織を作ることは考えていないが、学校部活動推進協議会や、検討委員会でさらに充実させながら連携し進めていきたいと回答いたしました。また、コーディネーターの配置についても現在検討中と回答しております。

２ページ目をご覧ください。２ページ目の上から２つ目の丸です。

指導者への謝金はいくら位を考えているのかとの質問に、県の委託事業で示されている上限１，６００円とし、実証事業における検証や各団体の意向等も聞きながら検討を続けていくと回答いたしました。

それから１つ飛びまして、その下の丸ですが、議員さんの方で調査特別委員会として山口県周南市、奈良県生駒市の方を視察したということで、両市とも事務局を設置している。そういったことについてどう考えるかとの質問ですが、本市としては、現時点では今の体制を継続したいと考えている。推進協議会の中で、必要と方向性となれば、また新たに考えていきたいと回答をしました。

次の丸ですけれども、現在教育委員会の指導課が主となって進めている

が、これについて不具合はないのかとのご質問がございました。

現段階では学校活動を切り離すところですので、指導課が主となって他課等と連携しながら進めていきたい。また、組織についても、もし事務局が設置できるのであれば、流れが推進されるのではないかと感じている、と回答させていただきました。

また1つ飛びまして、下から2つ目の丸になります。先進地視察では、執行部や学校関係者、保護者生徒、部活動に関係する全員が意識を変えていかないと進んでいかない。そのような話があったとのことで、関係者の意識改革が必要であると考えたら、どのような取り組みを考えているのかとの質問に対し、確かに本市においても保護者を含め、学校現場においても、意識改革が進んでいないことを感じておりますので、周知活動や説明会をとおして、意識改革に努めたいと、回答をさせていただきました。

次3ページ目になります。上から2つ目の丸ですけれども、生徒たちが活動している少年団クラブや道場等に参加している団体とは今後どのような関わり方をしながら、地域移行を進めていくのか。との質問に対し、練習内容のことで、平日の練習と休日の練習の兼ね合いが心身ともに、生徒の負担にならないように擦り合わせていくことが必要ではないか、という考え方を示させていただきました。

それから2つ下の丸になります。吹奏楽のケースですが、本市の学校の楽器を持って、他市のクラブ活動に参加することについてはどう考えるか。との質問に対し、現段階では、学校の楽器はその学校長が認めれば貸し出しは可能と考えているとお伝えしました。

それからその次の丸ですが、現在、色々なクラブが作られているが、必ず今後、色々な問題も起きてくる。例えば、指導者の行き過ぎた指導や、その後を批判する指導があってはならない。関係者の方々と共有しクラブ活動を行っていただきたいと思うが、教育委員会はどうか。との質問がございました。市としてはまず、生涯にわたってスポーツや音楽を楽しむことを主眼に置いて、地域移行の方を進めていきたい。技術の向上だけを目指すものではないところをお話させていただいて、地域の活動が推進されればよいと考えていることをお伝えしたところです。

最後になりますが、部活動が地域移行になった場合に、保護者への負担はどのぐらいを想定しているのか、という質問に対し現在、バレーで行っている実証事業では、1回の活動が250円、1ヶ月500円を徴収しているが、他の市町村においては、1回500円前後であることを踏まえ、今後の実証事業等の経過をもとにしながら検討していく、と回答させていただいたところです。以上、質疑応答についてであります。

1つお知らせがあります。ここで周知活動というお話をさせていただきたいのですが、市として部活動の地域移行の説明動画を作成しまして、YouTubeに載せることになっております。完成はして、その動画をサンプルとして、タブレットの方に用意してございますので、見ていただければと思いますのでよろしくお願いします。また、チラシについては、基本的にH&Sという家庭連絡アプリを使って、各家庭の方に配布しているところでございます。部活動の地域移行については以上でございます。

【質疑、意見等】

大塚委員 調査特別委員会で周南市と生駒市の視察をなさったところ、両市とも事務局を設置したということで、今市内の現場の先生方から、指導課の職員の皆さんが、地域移行の方を本来の仕事と並行しながら行っていて、大丈夫なのかと心配の声があります。仕事のボリュームがあって、その中で指導課の方が、地域移行という今までやったことのないことで、ものすごく負荷がかかると思います。例えば、事務局を設置しない場合、職員の増員であったり、他課の方が少しお手伝いに回ったり、現場の先生方が指導課の先生方は大丈夫でしょうかというお声をいただきましたので、ぜひご検討いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

教 育 長 ありがとうございます。

つなぎ役がいればという話が最初かなということで、どうなるか分かりませんが、そのような組織まではいかないにしても、何かつけてもらえないかという要望はしているところです。検討中という段階でございます。どこの市でもなかなか難しいところですよ。ただ当面、本市の場合は、平日は残るという側面もありますし、実は茨城県の場合も同じで、教育委員会の保健体育課が切り離される側ですが、事務手続きをやっています。社会体育や生涯学習課のようなところをやっている自治体もありますし、色々な形態があります。着手し始めたのが指導課で、非常に学校の先生と同じことで、仕事を日々やってくれているのは確かですが、何とかするべく部局の該当する課、または教育委員会のそれぞれの課もメンバーに入っていて、市役所全体の中の検討委員会がありまして、そこでワーキングチームを作って、色々なことをやっていこうという形にはなっています。制度設計から、実働まで全部指導課がやっているということでなく、少し実働の部分では、他の部局の方、または教育委員会の各課の方にも協力してもらおうような体制にはなっています。

大塚委員　　今の説明を、現場の先生方にお伝えしても差し支えないですか。

教 育 長　　はい。

佐藤委員　　ひたちなか市には、スポーツ振興課みたいなものはないのですか。

教 育 長　　市民生活部にあります。三浜駅伝や勝田マラソンをやっています。

佐藤委員　　社会人向けの部署ですか。

教 育 長　　学校教育に特化したところではありません。

佐藤委員　　市町村によっては、指導主事が1人、2人の市町村が結構多いので、そういう市町村だったらできないですね。水戸市とかひたちなか市は、指導主事がたくさんいますが、指導主事が1人2人だったら、やり切れないですね。どうなっていくのか、もう少し周りの様子見ながら考えていくようですね。

教 育 長　　地域移行が進展してしまえば、その時には全く組織を変えるかという話にもなってくると思われます。

大塚委員　　市長とのお話の中で鬼澤委員が、オンラインの活用をご提案なさったと思うんですけど、そもそも土日の部活動の地域移行で、例えば土日は部活動に参加しませんという意思表示はありなののでしょうか。平日はもちろん活動に参加しますが、クラブチームの練習になるのであれば、違う活動でやりますということがOKであれば、今までも土日の部活動があるから家族と過ごせないとかいう声をたくさんいただいて、もし、ご家族にアンケートを取った場合、「土日は家族で過ごしたいんです。そこまで、部活動で協調性や社会性を育むところでは、うちの家族では、もちろん帰宅部にはしませんけれども、嗜み程度でやりたいんです。」というご家族がいた場合、そういう方々が、例えば、地域ボランティア活動とか様々な活動で、部活動の代わりにそれでもいいですよという話であれば、土日はゆっくり過ごしたいというお子さんも一定数いると思います。そういう過ごし方もありますよということで進めていただけるといいのかなと思います。

指導課長 変な言い方ですが、同調圧力みたいなものや、試合に出るためには練習に参加しないと、という課題意識があるので、なかなかうまくいかないと思いますが、先生も意識を変えて、土日やりたいことがあるならそちらでいいですよという方向に持っていきたいと思っています。

教育長 競技によっては、中体連の大会の縛りがまちまちです。だから、地域クラブに軸足を置くのか、中学校の平日の部活動に軸足を置くのかによって、大会によっては競技に出られない危険性もあるかもしれないので、そこが少し今悩みの種です。

佐藤委員 この間の表彰式でもダンスで全国大会に出ているという、彼女、彼氏たちが、中学校の部活動に入らなくてはいけない。ダンスを辞めなくてはならない。そういう選択肢は、まさにそうだと思うんですね。自分が磨いてきたものを続けられるとか、辞めてしまうのはもったいない。道はあるのかなと思いますけどね。

鬼澤委員 オリンピックの競技もあれだけ変わってきたじゃないですか。学校でそれをやっているかというやっていない。眠っている才能があれば、学校に縛られることなくやっていただいたほうがいいですよ。

原委員 組織の話に戻りますが、初めてで分からないのですが、この調査検討特別委員会は、定常的にある組織なんですか。今回の地域移行に関して、今後も定期的に開催される組織なんですか。

教育部長 一定の期間設置される委員会になっております。常設している委員会ではないです。

原委員 資料の最後の方にある協議会とはどのような組織ですか。

指導課長 こちらは、基本的に外部の様々なスポーツ団体の方等に入っていて、外部の方も含めて、ひたちなか市の部活動地域移行をどのように進めていくかという検討をするような協議会になります。

原委員 この資料見てもやはり組織のことをすごく心配されていて、市役所の方が本当に忙しく、大丈夫かという不安も少し読み取れるんですよね。私が

考えたときに、これを推進してもらうときには、できれば地域クラブ活動の人たちが中心となって進めていただくぐらいにしておかないと、多分なかなか難しいと思いました。地域の受け入れ側が、どこかに参画しているのかなと思って、少し確認したかったんですが、協議会はどれぐらいの頻度で行われているのですか。

指導課長 3ヶ月に1回程度の予定で、今年度はもうありませんので、次回は来年度の予定です。

原委員 来年度で、もう完全に移行するとなると、3ヶ月に1回だと、少し大丈夫かなという気がしますし、結局、受け入れ側がその条件じゃ駄目と言ったら、一生懸命計画しても駄目になってしまいますよね。ですから、計画の段階から、受け入れ側にかなり入ってもらって、逆に主導権を渡すぐらいの感じでやったほうが、結果的には思うようにいくのかなと思います。ただ、地域のクラブ活動をやっている人たちは、これはプラスにとらえているんですか、それとも、押し付けられるように感じている状況なんでしょうか。

指導課長 基本的に活動の違いがあるスポーツ団体ですと、なかなか受け入れられないという意識だと思っているので、そことの調整が必要になってくると思いますし、ある程度、具体的にスポーツチームとして活動ができているところでは、受けられるところもありますので、様々でございます。

原委員 そういう積極的な受け入れと積極的な人たちをある程度中心に据えて、計画を進めていくというのは難しいのでしょうか。

指導課長 受けてくださるところがあれば、どんどんそちらの方向で進めております。あとは、差があってなかなか難しいところはどこに課題があるのかを確認して、できるかどうか検討を続けている形になります。

原委員 それを市役所が全部やっていたら、なかなか集約が大変なので、受け入れ側である程度、主導的にやってもらうことができればいいのかなと。

教 育 長 この推進協議会の設置については、スポーツ庁と文化庁が示したガイドライン、地域移行のガイドラインの中に書かれている内容なんですね。茨城県もそれを踏襲しているけれど、最終的には、地域クラブにほとんど全

部移行した後も、練習のし過ぎとか、そういうところをチェックするような機能も、極論をいうとあるんですね。なので、議会の委員会はある程度、移行が進めば、そこで役目が終わると思うんですけど、推進協議会の場合は、どちらかという、クラブ側の立場というよりも、子どもたちを守るというような機能もあるので、これはずっと続くということなので、受け皿としてのクラブ側の打ち合わせの場所は、別にセッティングしていくしかないのかなというところですよ。今お話を聞いて、動き出してからというよりは、やはり動き出す前からの組織がいいのかなと思います。

おそらく推進協議会の名前で、この指止まれみたいな感じで、色々な地域クラブを名乗ってくださる団体に申請していただきたいと思います。その会合のようなものは、どちらにしてもやっていくことになると思います。

原 委 員 指導課は、なかなか本心を言えないところもあるじゃないですか。同業の人たちだったら色々話ができて、擦り合わせをある程度してくれると思うんですよ。そこをうまく利用できるといいかなと思いました。

教 育 長 クラブの集まりというのは、あまり想定しておりませんでしたので、参考にさせていただいて、考えさせていただきたいと思います。

その他（３） ひたちなか市教育委員会「市立学校運営方針２０２５」について

指 導 課 長 ２月１３日に校長会がございまして、そちらの方でこの教育委員会の市立学校運営方針２０２５ということで、あくまでも案ですけども、こちらを示させていただきました。

大きな主題としては、自ら考え行動しよりよい社会の創造に貢献できる市民の育成。こどもを主語とした自由で楽しい学べる場作りというのを掲げて、市内統一してこれでやっていこうということになっております。

こちらが、案として示した重点方針ですが、まず黒四角の１になります。短期を軸とした学びのスタイルの改革ということで、学力向上等の話になります。課題解決型学習について ICT を活用しながら行っていくところですか、AI ドリルの活用、習熟度別学習が今、全国的にも進んでおりますので、その中の自由進捗学習といったものを奨励するところ。あとは、英語科の授業について、オールイングリッシュの授業を推進していきたい。このようなお話をさせていただきました。このオールイングリッシュ授業とは、指導課の方で計画訪問といいまして、毎年、学校のほうに訪問しまして、授業の進捗状況を色々確認したり、どんな授業を行っているかを確認したりする機会がありますので、ぜひこの計画訪問ですべての学校

にオールイングリッシュ授業をやって欲しいというような要請をいたしました。

4つ目としては、今年度実施しましたが、キャリア探検ラリーを拡充して行うことで考えております。それからまた英語なんですけれども、学校間英会話交流、学校間で英会話をオンラインで行うような交流や英語のプレゼン発表会を企画しながら、英語力の向上に努めていきたいと考えております。それから、茨城高専との連携をお願いしたいということで、留学生との交流により英会話体験や実験演習等を連携しながら色々ご指導いただきながらやっていきたいと考えているところです。

黒四角の2、大きな2つ目としましては、自治的活動によるエージェンシーの育成ということで、とにかく話し合い活動ですね、学級会、委員会生徒総会等の活性化をして、子どもが意見をどんどん言えて、それを尊重した魅力ある学校づくりを行っていかねばと考えているところです。また、白四角の2については、子どもを主体としたルールメイキング、校則ですね、学校行事の方を子どもが主体となって、当事者意識を持って改革していく。そういったことを推奨したいと考えております。このような自主的活動については、11月にいばらき教育月間というのがございますので、その中で、積極的に授業を公開して欲しいとお願いしたところです。

黒四角の3になりますが、3つ目としては、一人一人の教育的ニーズに対応した児童生徒支援の充実で、まず1つ目、子どもの困難や問題行動の発見、共有し支援する組織体制、組織で対応するということです。2つ目としては、不登校へのアプローチとして、様々な不登校対策を行っていますが、その根本のところでもう一度立ち返って考えながら、不登校の未然防止や抑制、不登校対応を行っていききたいと考えております。

四角の3ですが、いじめ認知の徹底と迅速化で、重大事態等発生する可能性が非常に高いところでありますので、いじめ認知を徹底するところをお願いしたところです。

4番のアセスメントシートにつきましては、指導課で専門研究委員会というのを行っておりますので、それについて、子ども一人一人を見るような、どんな支援が必要なのか考えるアセスメントシートの方を今開発しているところですので、そういった物を活用しながら、支援の手だてを考えて実践していくということを行っていききたいと思っています。

四角の5としましては、ケース会議の確実な実施。また、医療福祉等の機関等との迅速な連携ということで、明日、福祉部と連携しながら、様々な事情があるご家庭やお子さんに対して、ケース会議等を実施し充実した支援が行われるようにしたいと考えているところです。以上の重点方針と

しては、この大きく分けると3つですが、さらに黒四角の4から7ということで、こちらは校長先生方に対するマネジメントとして、このようなことをお願いしたところです。

まず4としては、校長のリーダーシップによる組織マネジメントの充実で、校長をトップとして問題発生時に状況把握を迅速にできるように、適切な判断ができるように、指示をきちんと出せるように、お願いをいたしました。それに伴って、子どもの観察や教職員の情報交換を充実する。また、弱音・愚痴をこぼせたり、様々な語り合いができる職場作りをお願いいたしました。

四角の3としては体罰・暴言等の不適切指導の根絶ということで、人権の視点からも、こういったものをきちんと徹底するようにお話をさせていただきました。

4番は、ミドルリーダーを生かしたミドルアップダウン体制の構築ということで、ミドルリーダーを今後育てていく中で、ミドルが、上にも下にも、充実した支援ができるように体制を構築していくことをお話ししました。

5番は、様々な教育活動、組織の取り組みについて、当事者意識を持ってPDCAをまわして、改善していくようにお願いをいたしました。

黒四角の5ですが、教職員研修の充実ということで、指導課や教育研究所の方で、先生方対象の様々な研修会を行っていますが、かなり研修会の数も増えております。それをどのようにスリム化しながら充実させていくか。学校全体に市教育研究会がございまして、様々な強化部を持って研究しておりますので連携しながら、できればその教育研究会がリードしながら、研修を行っていく。参集ばかりではなくオンラインなどを活用したり、オンラインすることによって頻度を増したり、定例化したりして研修の充実を図ってもらいたいというお話をしました。

四角の2としては、校内研修において様々なウェビナー、インターネットを活用して国の方のNITSという組織や民間団体等でも様々な研修やっておりますので、こういったところで充実を図ることや中高接続、なかなか今までこれやっておりませんでしたので、中高接続を踏まえて、中学校の研修等を行っていくということをお願いいたしました。

黒四角の6については、働き方改革の徹底ということで、時間外の在校時間、45時間以内を実現するために業務の分担をどのようにしたらいいのか。また、繁忙期の分掌変更、標準化・平準化等を図るようお願いをして参りました。また、出張や会議をスリム化して、先生方が教材研究等できるように様々な会議を見直すようお願いをさせていただきました。

四角の3としては、チーム担任制、教科担任制の推進で、休まれる先生方がおりますので、その際に有効に働く手立てとして、こういったチーム担任制や教科担任制をどのようにやっていくか。また、学校間の遠隔事業についても研究していくようお願いをいたしました。

最後に黒四角の7ですが、地域とともにある学校づくりということで、コミュニティスクールですね。こちらのさらなる充実と地域学校協働活動の一体的推進、それから、先ほども話題に出ましたが学校部活動の地域展開について、教育委員会、学校等と協力しながらやっていきたいと話をさせていただいたところです。以上でございます。

教 育 長 今までの課題意識をそれぞれ、少しくくりながら合計7項目にまとめてみたところです。補足ですけども、重点方針の1のオールイングリッシュの上の1番と2番についても、指導課が訪問する計画訪問のときに、英語の先生はオールイングリッシュで、その他の先生は、例えば数学の先生だったら、やれるならば自由進度学習をAIドリル等使いながら授業するでもよろしい。それ以外の教科の先生方は、1番の探求的な課題解決型の学習にICTを使いながらやってくださいというような感じで今の計画訪問にしたいと考えているところです。

原 委 員 AIドリルというのは、業者がやっているものなのですか。

指 導 課 長 そうです。AIドリルがすべての子どもの端末に入っておりますので、子どもたちはそれを使って、自分の進度に合わせて、フィードバックしながら進めるようなドリルになっております。

鬼 澤 委 員 今の話であればAIドリルが、子どものレベルがどんどん上がっていった場合、その自由度を許すような仕組みになっているのですか。

指 導 課 長 学年内での学習になりますので、それ以上の学習までは用意されていないと思いますので、どちらかというと自由進度学習に近いような、どんどんできた子は新しい問題をやっていくような形になります。

鬼 澤 委 員 本当にAIの時代であれば、逆にそのAIがその子どもの能力を見抜いて、より高いものに引き上げるような仕組みを作って欲しいという気はします。実際、そのような人材を作り上げないと、これからは、なかなか大変なのではないかという気がします。

教 育 長 そうですね。内容はもう飛び級しちゃうということですよ。

鬼 澤 委 員 多分、英語の世界では AI が優秀なので、もうすぐそこに同時通訳の世界が来ていると思うんですね。あらゆる言語で、誰か話して字幕が出るスピードが非常にリアルタイムですごく速くなった。もうすぐそこまで来ている中で、従来のような枠組みで果たして子どもを成長させていっていいのかなと思います。もう少し、飛び越えていくようなやり方をして人材を育てていくことが、国の動きとしてあると思う。その部分を少し出してくればいいのかと思います。

原 委 員 突き詰めていくと教員がいらなくなってしまうですね。

鬼 澤 委 員 目的のことで言うと、いらなくなっても違うことをやっていただければいいですよ。違うことをやっていただきたい。大事なのは子どもたちが、成長して世の中の役に立つことが、一番の目的なんです。ただ役立つといっても AI の世界とか IT の世界、それだけではありませんが、ただそういうことが理解できてないと、世界に行ったときに通用しないということですね。先週、副市長と商工会議所の関係でフィリピンのダバオ市を訪問しました。フィリピンはまさに母国語と英語が両方あります。当たり前英語があるんですよ。だから、海外とどんどん交流していくことは必要なのではないかと思います。特にアジアと接するというのは、すごく大事なことで、明らかにアジアの方が日本より進み始めてしまっているんですよ。それはやはり見ないとわからないです。行って今これが現実なんだということを感じないと駄目なので、それを今の社会人のレベルじゃなくて、本当に子どもたちにも実際リアルに感じてほしい。色々なハードルがあるかもしれませんが、やはりそういう機会を今後どんどん与えていくことが、教育の中で必要なのではないかということを多分、副市長も感じていらっしゃるのかもしれませんが、大谷市長にもぜひそういう話をさせていただければと思います。

教 育 長 ありがとうございます。お金がかかっていく話にはなるとは思いますけどね。

鬼 澤 委 員 そうですね。他の市でも色々なことやっていますが、浜松市には大きな会社ヤマハとか色々あるんですけど、向こうの大学に日本語学科を作っ

て、そこで教育をして日本に人材を送り込むという仕組みを作り上げています。それだけ日本は IT の人材が不足しているんですね。彼らは、英語は 100% できるし、とにかく若い人がいるわけです。今、フィリピンでの問題は人口が多過ぎる。だから、給料が上がらないですね。日本と逆の問題を抱えている。アンマッチの中で、誰かがつなぐことが行われれば、また違うお互いが良い発展ができるのではないかと。今後、教育の現場でも、もっと教育のレベルで行われると、子どもたちにとってもいい機会になってくるのではないのでしょうか。

教 育 長 夢のある話ですね。

鬼 澤 委 員 夢がある話をしていかなければ駄目ですよ。

佐 藤 委 員 昨日、徳島の大塚国際美術館に行ってきたら、色々な人種の方がおりました。前日には四国で唯一の秘湯に泊まったのですが、9 割が香港の方たちでした。日本人はその場所を知らない。ところが、向こうの人は知っている。だから、日本人が知らないのに、海外の人が知っているというのが、もう海外のレベルなのかなと。

鬼 澤 委 員 もう 1 つ言えるのは、日本は今世界から見たら、めっちゃめっちゃ安いわけですよ。信じられない。東京に行って 1,000 円であの料理が食べられるところは世界中ないです。

佐 藤 委 員 ですから 1 週間、1 ヶ月、2 ヶ月普通にいるんですね。

鬼 澤 委 員 そういうことですね。でも、それってやはり外に行かないと分からない。日本人から見ると、何でこんな海外の人が来ているのだろうと。

佐 藤 委 員 校長のリーダーシップによる組織マネジメントの充実ってあるんですが、その前に、何か変わったかという最初の四角の中、自ら考え行動しより良い社会の創造に貢献できる市民の育成ですね、子どもをわざわざ主語にした、昔だったら子どもを主役とした、みたいな表現ですけどもわざわざ子どもを主語にした意味は何かあるのですか。

指 導 課 長 基本的に国の方でもこういった方針でこの言葉を使ってやっておりますので、それを使わせていただいています。

佐藤委員 はい、わかりました。例えば4の校長のリーダーシップによる組織マネジメントの充実や問題発生時における対応状況把握。5番の教員の組織の検証と教職員研修の充実。先ほどの今の話で教職員の研修にも、AIやICT等も活用し現地に行かなくても、様々なことが、教員も学べるように研修をどんどん進めていくようになると思うのですが。私が校長をしていた時代は、例えば小さな中学校ですと学ぶ機会がないので、友達の水戸市の校長に連絡をして1週間そちらの学校で研修させてくれというのは、今の校長はやらないと思うのですが、やっていますか。

指導課長 本市では行っておりませんが、近隣市町村で学校の先生方が色々な他県の先進校に派遣している話があります。

佐藤委員 これはもう校長が出張命令を出せるので、相手方の校長が承諾すれば、例えばひたちなか市だって他市、あるいは他県でも校長のネットワークが高くなってくると、校長が連絡を取ってそこに3日間でも行ってこいと、そうやって実際に具体的に学ぶのもありかなと思います。あとは、先ほどあったとおり、海外の授業を勉強できることは、ICT、オンラインが使えるいいところですね。海外も入ってきて、もうやっている学校ありますけどね、子どもたち同士はもちろん先生同士がやっていくのもありかなと思います。

教育長 今年度の湊二小の鎮目校長が、「先生全員に必ずどこかに行って来い、と出張で研修を全員に行わせることができました。」とこの前、面談で報告してくれました。要するに、他流試合というかそういうことですね。今日皆様からご意見をいただいて、3月の教育委員会あたりで案を取るような感じで、最終的には学校にそれを提示しようかなと思っています。

佐藤委員 校長さんに色々ネットワークを広げてもらう。

教育長 出張を増やすことにはなるかもしれませんが質の問題になります。今の最後のところにあった中高接続は、先ほど課長の方からお話がありましたが、高校の無償化が始まると、これはおそらく県立高校は今大変な騒ぎだと思います。私立にどんどん行くんですね。尚更、部活をやりたい人は私立に行くと思います。やはり我々も中学校の先生も忙しいんですけど、子どもたちを送る先の高校の授業をどんどん先生が大挙して見に行っ

て、今小学校が中高一貫校を見に行くのと同じですよ。そういうのをやって、塾が情報を持っているのもありますが、塾に通えないお子さんだって当然いるので、キャリア教育の一環として、中高接続というかその高校の在りようを、先生が見て来て、色々助言してあげるのは、ある程度必要ですねというような問題提起があります。

佐藤委員 授業料の無償化について、お子さんが学校に行っているとかかるお金で多いのは、修学旅行積立、教材費、私立高校だと海外に行く積み立てです。お金がかかるのは授業だけではないですよ。

教育長 公立の中高一貫校は事前に提示して、極力外国に行こうとしていたんですけど、あちこちコロナがあって、おそらくほとんど駄目になっています。香港・深圳に行くことを並木中等教育学校は計画していたところもありましたね。外国は経験させてあげたいですけど、外国に行って、ほったらかしにした方が英語の勉強はおそらくできるようになるんですよ。アジアに行くのもいいかもしれないですね。

鬼澤委員 エネルギーがありますからね。フィリピンはまさにピラミッド構造が綺麗なんですよ。まだまだ若い人が沢山いる世界です。楽観的でフレンドリーだからすぐ結婚するような文化的なことがあって、日本は少しそこに学ぶところもあるのかなと思います。

教育長 思い切って少し数ヶ月でも、1校ずつフィリピンに行かしちゃうとかね。

鬼澤委員 ダバオというところがいいです。ダバオは元ドゥテルテ大統領の出身で、彼が市長になって、その時に麻薬とか一掃しちゃって、町を綺麗にしています。喫煙するのも結構制限されていて町がとても綺麗です。何がいかというと、ダバオ王国みたいな感じで人柄がいいですね。私はダバオ2回目だったんですけど、明らかに日本人に近い感覚ですし、商工会議所は実は今姉妹提携しているんですけど、市同士でもやりたいと話もあります。今、大阪万博がありますので、出展のついでに寄りますという話も入ってきています。ぜひそういう交流をしてほしい。かつダバオは1900年の前半に日本人がマニラ麻を生産していて、日本人が2万人ぐらい住んでいた時代があって、非常に歴史的には、日本に対して親近感を持っています。

教 育 長 戦争の爪跡はあまり感じなくて済むわけですね。

鬼 澤 委 員 ないですね。名産がバナナやマンゴーやドリアン等のアグリカルチャーが結構有名なのと、カカオ、チョコレートの名産地でもあります。

教 育 長 英語の学習も含めて、全員は無理でも希望者が行けるようになるといいですね。

鬼 澤 委 員 いい英語の勉強にはなと思います。

教 育 長 ありがとうございました。またお気づきの点がありましたら、この件については、3月いっぱいにとまとめればいい話です。案件は以上でございます。

教 育 長 (閉会の宣言)

閉会 17:05